

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



昭和9年(1934年)頃
山国橋が完成



藩界石[八坂神社(直江)]

藩政時代の境界であった御界川(現在でも吉富町と豊前市の境界)に建っていた。「従是東中津領」と刻まれている。

第2回

「吉富町」になるまで

町名の由来は室町時代の呼称「吉富郷」

2つの河川と小丘陵を有する吉富町には古代から集落が点在し、それを伝える史跡も多く残っています。一帯は古代「豊の国」と呼ばれ、古事記伝の「豊はゆたたく大きな意なり」からも豊かな土地が広がっていたことがうかがわれます。奈良時代には豊前国上毛郡に属し、鎌倉時代には佐井川の東側が「吉富名(よしとみみょう)」と呼ばれ、室町時代にはその一帯の村々全体を「吉富郷(よしとみごう)」と呼ぶようになりました。それが現在の町名「吉富町」の由来となっています。

吉富町の誕生

町域は、江戸時代から明治4年(1871年)までは中津藩に属していました。その後、中津県、小倉県と変遷し、明治9年(1876年)の小倉県廃止を機に福岡県に編入されました。明治21年(1888年)の市町村制施行によってその翌年、東吉富村(大字幸子、別府、楡生、鈴熊、今吉、土屋、直江、広津)と高浜村(大字小犬丸、小祝)が誕生しました。そして、明治29年(1896年)の郡制の実施により築上郡が誕生した際、当時の高浜村を山国川を境にして大字小祝の東側(現在の中津市小祝)を中津町(現中津市)に編入、西側(現在の高浜区)と大字小犬丸を東吉富村に編入して現在の町の姿となりました。そして、昭和17年(1942年)5月19日に町制を施行し吉富町が誕生したのです。

幸福感を連想させる地名

築上郡吉富町の文字は、「吉(きち)」「と(とみ)」「富(とみ)」を「築き上げる」とも見るができます。また町内には、喜連島、幸子、今吉などの縁起の良い名前が多くあり、幸福感が連想されます。近年、町の商工・観光の分野で「吉(きち)」を呼び、富(とみ)を生む町「吉富町」というキャッチフレーズも生まれ、町名が町のPRにも活用されています。